

事例研究報告

特別支援学校高等部生徒が作業中
クラスメートに援助を求める指導

生徒の実態

高等部生徒 自閉症

- 教員と話すことが好き。長い会話は続かないが、クラスメートから話しかけられて応答している様子はときどき見られる。
- 何度も経験した会話のやりとりはスムーズにできる。
- 相手の様子を窺わず、自分のタイミングで話し始めることが多い(「昨日〇〇しました」「今日のお弁当は〇〇です」等)。
- 教員への援助要求はほとんどの場面でできるが、友だちへの援助要求については、言葉かけ等の支援が必要。

教員の考え



「困ったことやわからないことがあった時、周囲に助けを求められるようになってほしい。」

アドバイザーからの助言 1

援助要求しづらい原因を探ってみましょう。



指導目標の見直し

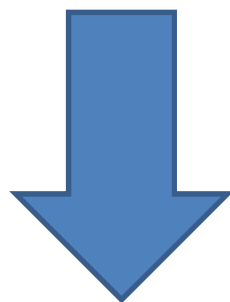
援助要求しづらい原因について探ってみました。

結果↓

- 「わかっていないこと」がわからない
- 周囲の大人たちにどこまで求められているのかわからない(正解を探る傾向あり)
- セルフィメージを壊したくないのかも
- 指示理解ができていないかも
- 自分で選択できないのかも
(選択することに自信がない、選択する経験が少ない等)

アドバイザーからの助言 2

援助要求の前に、自分で選択できるか探ってみましょう。



アドバイザーの先生からの助言を受けて、自己選択ができるかについて、現状の記録をとりました。

記録方法と記録

本人が大好きだと思える活動と、そうでない活動を準備し、選択した活動を記録する方法で行いました。

【記録方法】

実施授業・・・担任が受け持っている授業内で実施
選択肢・・・2択(タブレットで路線調べ・トレーニング)
期間・・・月～金曜の連続5日間
活動時間・・・5分間
場所・・・教室

【結果】

自己選択できた回数・・・3回
(9/5～9/9の5日間で実施)

アドバイザーからの助言 3

1. 「自分で選択できている」と考えてよいでしょう。
2. 援助要求における現状の記録をとり、観察をしましょう。その後指導方法を考えていきましょう。

援助要求できない理由として…

1. 「困っていること」に気づいていない。
2. どうすればよいか(何と云えばよいか)わからない。
3. 方法はわかるが、実際援助要求する技術がない。
4. 方法も技術もあるが、援助要求しても援助してもらえない(嫌な表情をされる、「それくらい自分でしなさい」と言われる等)。
などが考えられるでしょう。



現状の記録から見えてきたこと

【現状の記録】 2場面で記録をとりました。

作業場面 家庭科調理実習

【わかったこと】

- ・ 教員には進んで援助要求ができましたが、クラスメートへの援助要求はほとんど見られませんでした。



検討会を持ち、クラスメートへの援助要求に絞って指導の手続きを考えることにしました。



指導目標の見直し

【長期目標】

クラスメートやクラスメート以外の特定の生徒に対し、援助を求めることができる。

【短期目標】

特定のクラスメートに対して、援助を求めることができる。

指導その1

【指導場面1】

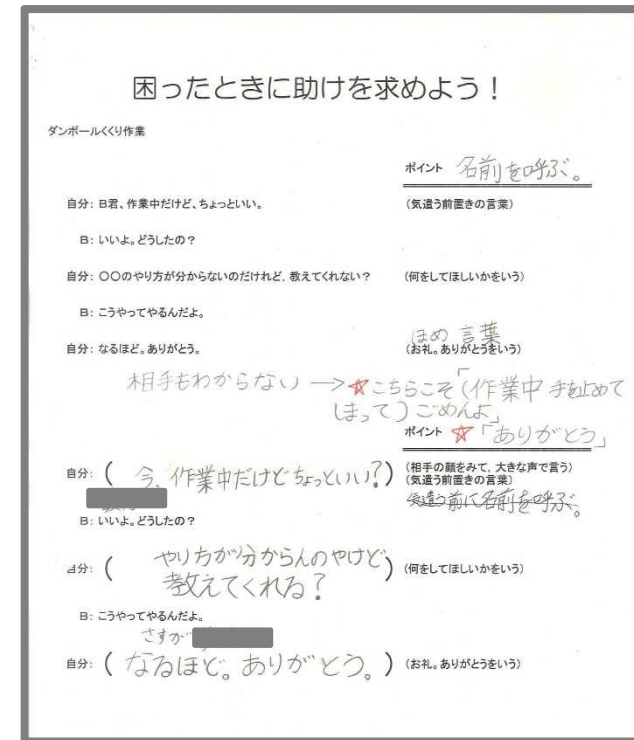
特別活動・生活単元学習等で
SSTを行う(定着場面)

【教材】

SSTワークシート
パワーポイント資料

【方法】

1. 前回行った段ボールくくりの様子を動画で振り返る。
2. 困ったことについて話し合う(ペア活動)。
3. 友だちに援助を求める方法を学ぶ。
4. 友だちに援助を求めるセリフを考える(ペア活動)。
5. 場面を設定してロールプレイを行う。



指導その2

【指導場面2】

段ボールくり作業（般化場面1）

【教材】

段ボール、荷紐、はさみ

【手続き】

1. 作業内容や作業方法、ルール等を説明，提示する。
2. 困った時やわからない時は、ペアの生徒に聞くよう伝える。
3. 適切に援助要求できたときは賞賛する。
4. 教員に援助要求してきた場合は、提示したルールを再確認するよう促す。

指導その3

【指導場面3-1】


朝活でのおりがみ
(般化場面2)

【教材】

おりがみ, 折り方シート
援助要求チェックシート
シール

援助要求チェックシート

15										
14										
13										
12										
11										
10										
9										
8	●							●		2/0 おりがみ(5分) ユニット ハートはこ
7	●		●					●		2/9 おりがみ(5分) ユニット ハートはこ
6	●		●					●		2/8 おりがみ(5分) はこ3
5	●		●					●		2/7 おりがみ(5分) はこ2
4	●		●					●		2/6 おりがみ(5分) はこ1
3	●		●	●				●		2/3 おりがみ(5分) おに
2	●		●	●				●		2/1 おりがみ(5分) ハート
1	●		●	●	●	●	●	●		2/1 おりがみ(5分) 3/4折紙
	A									課題



【手続き】

1. 折り方シートを見ておりがみを折る(5分間)。
2. 活動中、困ったりわからなかったりしたら、クラスメートに援助を求めるよう、活動のはじめに確認をする。
3. クラスメートに自分から援助を求めることができたなら賞賛し、シール1枚を渡す。

指導その3

【指導場面3-2】

家庭科での調理実習（般化場面3）

【教材】

調理器具、食材、レシピ（豚丼、牛丼）

【手続き】

1. レシピに沿って、ペアで調理を行う。
2. 調理中、困ったりわからなかったりしたら、クラスメートに援助を求めるよう、授業のはじめに目標確認をする。
3. 授業の終わりに作業ノートを使用して振り返りを行う。

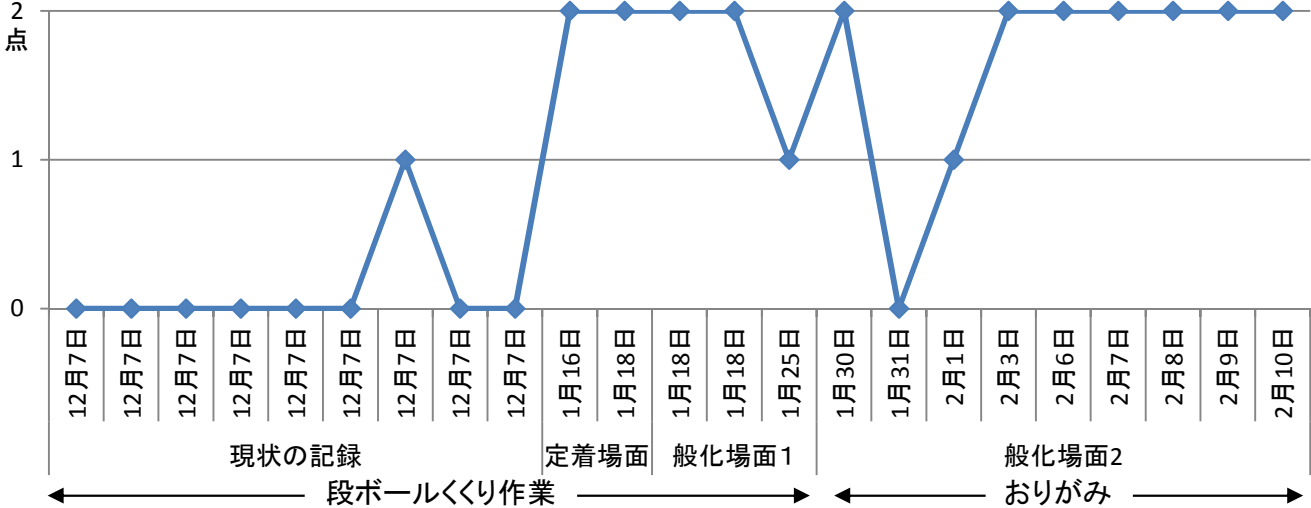
記録方法と記録

【指導場面1】【指導場面2】【指導場面3】における、段ボールくり作業や朝の活動でのおりがみ、調理実習をとおして、次のとおり記録をとることにしました。

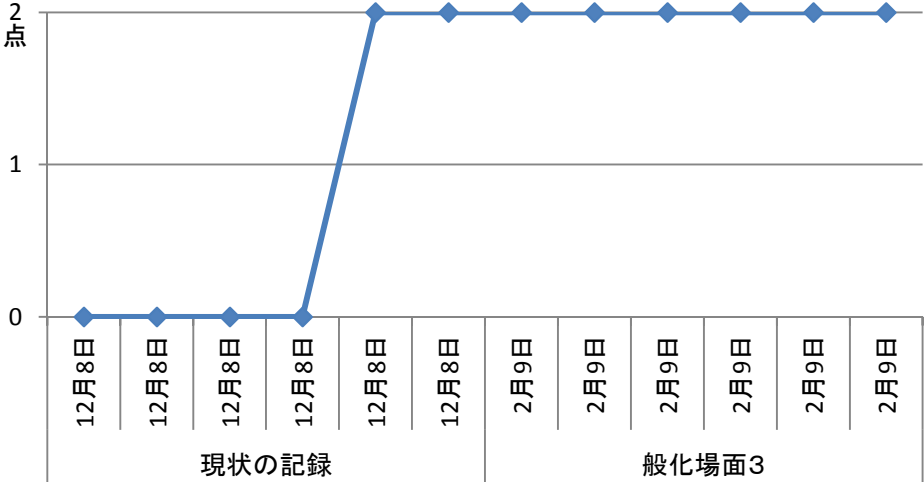
点数	評価基準
○(2点)	自分からクラスメートに援助を求めることができた。
△(1点)	教員の言葉かけによりできた。
×(0点)	できなかった。

指導1の成果

段ボールくり作業
おりがみ



家庭科(調理実習)



2点 支援なくできた
1点 言葉かけあり
0点 できなかった

アドバイザーからの助言

- クラス全体で援助要求OKチェックシートを活用したことで、他の生徒も友だちへの援助要求が増えたことがよかったです。
- 必要に応じて、校内ですぐに検討会を開いていたことがよかったですと思います。



ここが成功のポイント



- ソーシャルスキルトレーニングで定着を図ったことで、スムーズに般化場面に移行できた。
- 援助要求OKチェックシートの活用で、他の生徒にも要求頻度の向上がみられた。
- 教員チームで改善を進めるための検討会の開催が有効であった。